

# 池上曾根弥生学習館

泉大津市千原町2丁目 12-45  
 開館時間：午前10時～午後5時  
 (入館は午後4時30分まで)  
 休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)  
 祝日の翌日(土日除く)・年末年始  
 入館料：無料(但し体験学習は実費)  
 電話：0725-20-1841  
 F A X：0725-20-1866

いつでも・だれでも気軽に弥生時代のものづくりを体験できます。  
 本物の土器にふれる、弥生時代の衣服を着る、勾玉・弥生土器をつくるなど、弥生時代を味わえるメニューを用意しています。



\*団体での体験学習は予約が必要です

# 池上曾根弥生情報館

和泉市池上町4丁目 14-13  
 開館時間：午前10時～午後5時  
 休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)  
 祝日の翌日・年末年始  
 入館料：無料  
 電話/FAX：0725-45-5544



復元ゾーンの情報はここでゲットしてください。ボランティアによる解説もおこなっています。お気軽に質問ください。



# 大阪府立弥生文化博物館

和泉市池上町4丁目 8-27  
 開館時間：午前9時半～午後5時  
 (入館は午後4時30分まで)  
 休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)  
 年末年始  
 入館料：一般 310円  
 65歳以上・高大生 210円  
 中学生以下 無料  
 (特別展・企画展の開催時は入館料が変わります)  
 電話：0725-46-2162 F A X：0725-46-2165



池上曾根遺跡にとどまらず、弥生文化全般を広く対象とする全国で唯一の博物館です。弥生時代のすべてを深く楽しく学べます。



電車では…  
 ●JR阪和線「信太山駅」から西へ徒歩7分  
 ●南海本線「松ノ浜駅」から東へ徒歩20分  
 車では…  
 ●阪神高速湾岸線「助松JC」から  
 ●阪神高速堺線から  
 ●阪和道「堺IC」から  
 国道26号 池上曾根遺跡前交差点へ



編集/発行 泉大津市教育委員会  
 協力 和泉市教育委員会  
 大阪府立弥生文化博物館



# 池上曾根史跡公園

いけがみそね しせきこうえん

池上曾根弥生学習館

池上曾根弥生情報館

大阪府立弥生文化博物館



# 池上曾根遺跡って どんなところ？

どんな遺跡？

## 弥生時代の環濠集落遺跡

池上曾根遺跡は、大阪府和泉市池上町・泉大津市曾根町に広がります。遺跡全体の範囲は南北約1500m、東西約500mにおよび、これまでにおこなわれた発掘調査で、弥生時代の人々が500年にわたって暮らした集落が広がっていることがわかりました。集落の周りを堀(濠)で囲んでいることから、環濠集落と呼ばれます。近畿地方で屈指の大規模集落であることから、1976(昭和51)年に国史跡に指定されました。



弥生時代中期ごろの池上曾根遺跡(想定復元図)

神聖なる  
マツリの場合

## 大型掘立柱建物と 大型くり抜き井戸

集落の中心から、床面積135㎡もある大きな掘立柱建物とクスノキをくり抜いてつくられた大きな井戸が見つっています。大きな掘立柱建物は22本の支柱と4本の棟持柱からなる長方形の建物で、柱穴には直径約50～60cmの柱材が腐らずに残っていました。その南側には直径約2.3mのクスノキの大木をくり抜いてつくられた大きな井戸がありました。これらの施設は、集落あるいは周辺地域の重要な行事の場であったのではないかと考えられています。



見つかった柱材を「年輪年代測定法」により分析したところ、1本の柱は紀元前52年に伐採されたことがわかり、弥生時代中期の実際の年代が初めて明らかになりました。それまで考えられていた弥生時代の年代から100年も古いことがわかり、その後の歴史の流れに、大きな一石を投じました。



集落のようす



地面を方形や円形に掘りくぼめて、その中に柱を立て、屋根をかけた半地下式の構造で、弥生時代に一般の人々が暮らした住居です。環濠の周辺でおびた数々の竪穴住居が重なり合って見つかりました。何世代にもわたって繰り返し建て替えをおこなっていたようです。

## 掘立柱建物と区画溝



大型掘立柱建物の周囲からは、掘立柱建物が多く見つかりました。これらの建物は、居住のための建物ではなく、集落の作業場であったと考えられており、金属器の製作場・作業場であったとする説もあります。溝で区画し、竪穴住居の区域と区別して利用していたようです。



## 環濠

集落の周囲を流れる河川を利用しながら、集落の周りに環濠をめぐらせていました。弥生時代中期後半に、少し位置をずらして掘りなおされたことがわかっています。環濠の外側には墓域が広がっており、生活区域と区別するための役割があったのではないかと考えられています。

くらしの道具



弥生土器



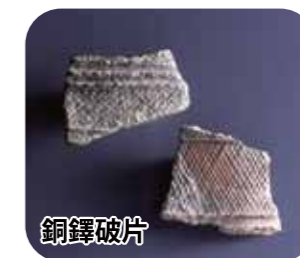
木製品

池上曾根遺跡から大量の土器や石器などが見つっています。弥生土器や石器、木製品などの生活の道具からは当時の人々の暮らしが想像できます。弥生時代の道具は、余計な装飾をそぎ落としたシンプルで洗練されたスタイルが魅力的です。



勾玉

祭祀にかかわる特別な道具もみつっています。弥生時代の人々の精神世界をうかがい知ることができる重要な遺物です。



銅鐸破片



鳥形木製品

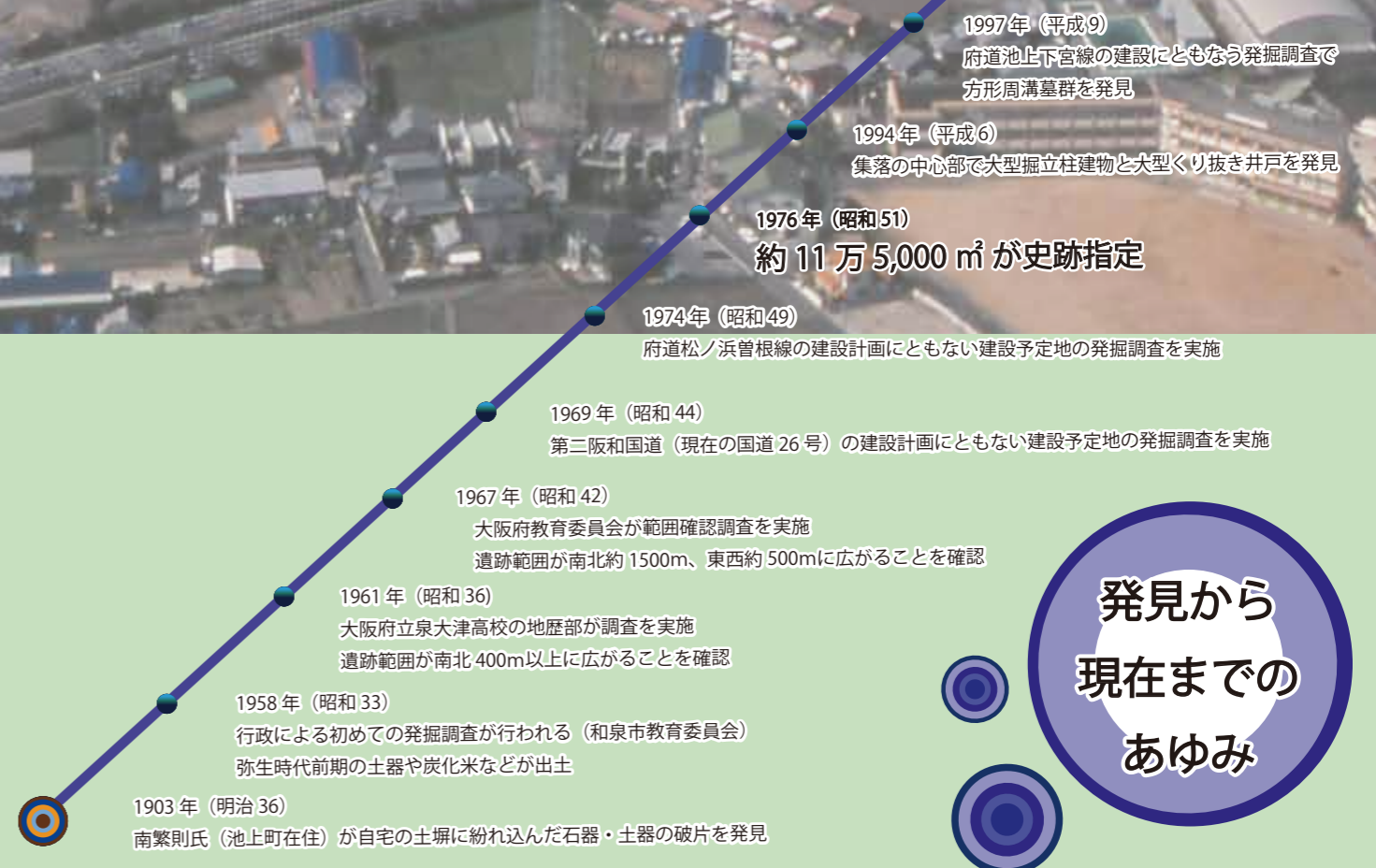
# 池上曾根遺跡に いってみよう!

史跡池上曾根遺跡を保存・活用するために、集落の中心部は**池上曾根史跡公園**として整備されています。池上曾根遺跡が最も繁栄した「**紀元前 50 年ごろのあ**  
**る日**」をコンセプトに発掘調査の成果をもとに復元した建物などを見学することができます。

## 池上曾根遺跡 DATA

所在地	大阪府和泉市池上町、泉大津市曾根町ほか
史跡指定	1976（昭和 51）年 4 月 26 日
追加指定	1978（昭和 53）年 11 月 15 日 1993（平成 5）年 2 月 5 日
指定面積	約 11 万 5000 m <sup>2</sup>

## 2001 年（平成 13） 池上曾根遺跡史跡公園 開園



発見から  
現在までの  
あゆみ

# 復元された池上曽根の風景

紀元前 50 年ごろのある日

集落の中心となる

## 大型掘立柱建物 いずみの高殿

史跡公園のシンボルともいえるひととき大きな掘立柱建物は、集落の中心から見つかった大型掘立柱建物を復元したものです。

上屋構造は土器に描かれた建物の絵画などを参考に、壁のない高床建物としました。集落の中心となる神聖な建物として、床上の空間は神の宿る聖なる部屋、床下の空間は人々が集うスペースとして利用されたと想定しています。屋根の形は魂を運ぶ聖なる鳥舟（日本神話に出てくる神が乗る舟）をイメージし、屋根の上には、祖霊を導く聖なる鳥をかたどった鳥形木製品を飾り、建物の神聖さを表現しています。

復元には、和泉市父鬼町の三国山で伐切された 50 本のヒノキを使用しています。

### いずみの高殿復元 DATA

側柱 22 本・棟持柱 4 本の計 26 本で構成される  
梁行 1 間型の掘立柱建物  
大 き さ 東西 10 間 (19.2m)、南北 1 間 (6.9m)  
床 面 積 135 m<sup>2</sup>  
屋根総面積 400 m<sup>2</sup>  
屋根素材 葦  
建物素材 和泉産ヒノキ (柱・桁・梁・地棟・登梁・梯子など)

### 復元の根拠となった絵画土器



発掘調査では、柱の位置や太さはわかりますが、上屋構造はわかりません。そのため、土器に描かれた建物の絵画を参考に、専門家の意見も交えて復元されました。

### 祖霊を導く鳥

稲作の伝来とともに、祖霊を導く生物として、「鳥」を崇拜する観念が伝えられたと考えられています。屋根の上に鳥形木製品を飾ることで、建物の性格を示唆しています。



### 刻まれた物語

池上曽根の人々の物語と四季のくらしぶりをイメージする線画を作製し、建物の装飾板に刻みしました。想像力を働かせながらぜひご覧ください。



建物の復元にあたり製作した線画

## 清めの水を汲んだか 大型割り抜き井戸 やよいの大井戸

大型掘立柱建物の南側から、直径約 2.3mのクスノキをくり抜いたものを井筒とした大型井戸が見つかりました。この井戸は大型建物とともに、集落の中心にあり、特別な施設であったと推測されます。

クスノキは、防虫剤の原材料となる樟腦しょうのうとして知られる匂いの強い樹木です。そのため、湧き出た水にも独特な匂いが移り、日常で飲用する井戸としてはあまり適していません。そこで、この井戸はクスノキの防虫効果を清めの力として利用していたと想定し復元しました。

井筒の復元に用いたクスノキの大木は、東大阪市から寄贈いただきました。



### やよいの大井戸復元 DATA

井筒  
大 き さ 直径 2.3m・内径 1.9m・厚さ 20cm  
復元した深さ 1.2m  
木 材 クスノキ (東大阪市産)  
井戸屋根  
高 さ 5m  
木 材 柱: クリ 屋根: 葦葺き

## 環 濠

弥生時代中期に集落の周囲をめぐるように掘削されていた溝は、掘削されてからは埋もれるにまかせ、埋まると再度、掘削されました。

史跡公園内の入口広場では、発掘調査時の様子を再現し、複数時期の環濠を同時に復元しています。復元エリアでは、紀元前 50 年に存在した環濠を復元しています。



## 掘立柱建物

集落の中心部に近い場所には、掘立柱建物ばかりのエリアがありました。この場所は、道具を製作する作業場エリアではないかと考えられています。

上屋の構造は、絵画土器を参考に、切妻屋根と寄棟屋根の 2 種類の形式で復元しました。作業場という性質で復元する際に、風を嫌う作業もあったとの想定から、寄棟屋根の建物は三方に草壁を取り付けています。



廃棄され埋もれかけた住居

人が住まなくなって  
屋根や柱が朽ちて  
しまった

### 想像復元した竪穴住居

- 二世前代 廃棄され埋もれてしまった住居
- 一世前代 廃棄され埋もれかけた住居
- 現役世代 円形竪穴住居
- 子ども世代 方形竪穴住居



方形竪穴住居

若い世代が暮らし始めた  
新しい形の住居

## 竪穴住居

環濠の周辺では、池上曽根遺跡で人々が暮らした 500 年の間に、竪穴住居の形が、円形から方形に変化していたことがわかっています。復元コンセプトの紀元前 50 年ごろは、ちょうど円形から方形に移り変わる時期であることから、4 種類の異なるタイプの住居を復元し、世代交代と時代の移り変わりを表現しています。